2017 年度学術交流支援資金
「生態学フィールド調査法」
報告書

背景と目的

生態学フィールド調査法は2008年から筆者と共同研究者である井本郁子が担当をしている授業で、生態学的な調査方法を身につけるための実習である。現在は、春学期前半に開講していて、金曜日に4コマ連続で7回実施している。SFCの内部及び近隣をフィールドとし、植物相と動物相の調査方法を習得する。限られた時間数であるので、履修者は、調査法、機器の使い方、生物の同定方法、集計、分析方法、標本の作成方法を習得する。授業とはいえ、約10年間継続して調査を続けてきているため、数々の生物情報を蓄積してきた。特に、植物種については、樹木を中心にこれまでSFC植物図鑑も作成してきた。看護医療学部の開設時に設置され、その後管理が放棄されてしまったビオトープ（生物のための生息空間）（以後看護ビオトープ）を、2014年から一ノ瀬研究会の学生が管理、再生させるプロジェクトを始めたため、その活動とも連携し、生態学フィールド調査法でも、看護ビオトープの生物相の一部を調査してきた。これらの生物情報は、今後授業担当者が変わっても引き続き活用できるように、資料として整備しておく必要がある。加えて、GIGA科目として開講するためには、資料を英語で作成する必要がある。申請者は、これまでも別の大学院科目やGIGA科目として開講し始めたランドスケープエコロジーにおいて、看護ビオトープを始め、SFC内外のフィールドを使った演習を試みてきたが、それらの授業でも共通して使うことができる資料となり得る。よって、看護ビオトープにおける研究成果とあわせ、英語の電子教材を作成することを目的とする。

看護ビオトープについて

看護ビオトープとは慶應義塾大学看護医療学部のキャンパス裏手に創出された、面積約0.18haのビオトープのことを指す。ビオトープの東から西の方向へ水路が通っており、植栽されたハンノキを主体とする湿性植生環境を有する。

当ビオトープは藤沢市の三大谷戸の一つで生物多様性の高い「遠藤笹窪谷（健康の森）」の下流部に位置し、立地としては非常に良い環境の中にあると言える。このように健康の森に隣接する当ビオトープは、藤沢市の「健康の森基本計画」にも記載されているが、現在の当ビオトープの扱いは「既存ビオトープ」とされている。

しかし現状は、しばらく管理の手が入っていなかったため、オオブタクサやセイタカアワダチソウなどの外来植物が繁茂した環境であり、決して良好であるとは言えない。また、水路は通っているが流量がとて少なく、造成当初は流れていたであろう部分が一部枯れてしまっている。これは当ビオトープが盛り土によって形成されているため降雨時に土砂の流失が起りやすく、さらにはしばらく管理されなかったことが原因で、土地の傾斜が変わり、水路が移動してしまったことが考えられる。管理されなかったことが原因でこのようになってしまった。当ビオトープのような人工的に造られた環境は、適度な管理を欠かすことができない。

2. 調査手法

① 調査時期

春学期（5～7月）、秋学期（10～12月）

② 調査方法

木本類、草本類を対象に調査を行った。

木本類の調査では、ビオトープ内の全ての木本類（ただし低木以上に限る。低木は高さ 0.8m 以上の木本と定義する）の種名、高さ（測桿を用いて計測）、胸高直径（地面から 1.3m の高さでメジャーを巻き、木の周囲長を計測した）、樹冠の大きさ等を記録した。樹木にはテープを巻き、ナンバー付けすることで、記録したデータと対応できるようにした。冬季に UAV で空撮し、合成した画像から木の位置をプロットした。

草本類の調査では、ビオトープ内を歩き、見つかった草本類の種名を記録した。必要に応じて植物を採取、もしくは画像として記録するなどして同定作業を行った。草本類の調査時に木本類の実生が見つかった場合、それも記録した。

3. 調査で確認された植物種

概要

調査の結果、記録された総種数は 124 種であり、在来種は 106 種であった。環境省のレッドリスト VU、神奈川県レッドデータブック掲載種Ⅱ類のクゲヌマランが 1 株だけ確認された。藤沢市自然環境実態調査で指標種に選定されている種はフジカンゾウ、ソクズ、コガマ、ヒトツバハギの 4 種、重要種に選定されている種はオニスゲと上記のクゲヌマランが確認された。（本来重要種であるハンゲショウは当ビオトープでは植栽されたものであるため、重要種としては評価できない）また、指標種等には指定されていないが藤沢市内でも遠藤でしか記録がない、ハマハナヤスリが確認されている。

表記に関する注意事項

- ・科の配列順序や学名は「平成 23～25 年度藤沢市自然環境実態調査」に従った。
- ・環境省 RL：今回の植物調査においては、環境省が定めるレッドリスト（第 4 次レッドリスト）に含まれる種は確認されなかった。
- ・神奈川県 RDB：今回の植物調査においては、神奈川県 RDB（「神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006」（平成 18 年 7 月 15 日、神奈川県 立生命の星・地球博物館））に含まれる種は確認されなかった。
- ・外来種など：特定外来生物については、「特定外来生物による生態系に係る被害の防止に関する法律(平成 17 年 3 月改正)」(以下「特外法」)を拠所とした。

- 特定外来：「特外法」で指定される特定外来生物

要注意外来生物は「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(平成 27 年 3 月改正)」(以下「生態系被害防止外来種リスト」)の成立によって削除され、「生態系被害防止外来種」として扱われるようになった。よって、「生態系被害防止外来種リスト」に準拠し、以下のように記載した。

【国外由来の外来種】

- 未定着のもの…定着を予防する外来種(定着予防外来種)
 - 侵入予防外来種
 - その他の定着予防外来種
- 定着が確認されているもの…総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種)
 - 緊急対策外来種…対策の緊急性が高く、特に、各主体がそれぞれの役割において、積極的に防除を行う必要がある種。
 - 重点対策外来種…甚大な被害が予想されるため、特に、各主体のそれぞれの役割における対策の必要性が高い種。
 - その他の総合対策外来種
- 産業又は公益的に重要で利用されているもの…適切な管理が必要な産業上重要な外来種(産業管理外来種)
 - 重点対策：総合対策外来種の内、重点対策外来種
 - その他：その他の総合対策外来種

その他については、「平成 23～25 年度藤沢市自然環境実態調査」の記載に従った。

- 帰化：「神奈川県植物誌 2001」の記載に準拠し、国内帰化を含み、人為的な導入による種は含まない

- 逸出：「神奈川県植物誌 2001」の記載に準拠し、植栽・栽培された個体を起源とする実生や野生化したもの

- 植栽：「神奈川県植物誌 2001」の記載に準拠し、人の手による明らかな植栽・栽培個体
※同一種が、調査箇所によって「帰化」、「逸出」、「植栽」および自生が混在する場合は主たる確認状況を採用した。

※同一箇所において、「帰化」、「逸出」、「植栽」および自生が混在する場合は、より自然に近い確認状況を採用した。(自生>帰化>逸出>植栽)

・健康の森の有無：当ビオトープに隣接する健康の森で、その種が確認されているかどうかを示した。藤沢市自然環境実態調査(平成 23～25 年度)時に、確認されている場合は「○」、

見つからない場合は「×」で示した。

- ・ ビオトープ内での植栽の有無：ビオトープ設計当初の植栽図に記載がある場合、その種は植栽されたものとした。植栽された種のみ「○」を示した。

確認種一覧

表1：植物 確認種一覧

※種名を草本は黒、木本はオレンジ色で記した。

科名	番号	種名	学名	環境省RL	神奈川県RDB	外来種など	藤沢市環境実態調査		健康の森の有無	ビオトープ内での植栽の有無	備考	確認した年	
							選定種					2015年	2016年
							指標種	重要種					
トクサ科	1	スギナ	<i>Equisetum arvense</i>						○			○	○
	2	イヌスギナ	<i>Equisetum palustre</i>						○			○	
ハナヤスリ科	3	ハマハナヤスリ	<i>Ophioglossum theraiale var. theraiale</i>						○			○	
オンダ科	4	ベニシダ	<i>Dryopteris erythrosora</i>						○				○
ヒメシダ科	5	ヒメワラビ	<i>Thelypteris torresiana var. calvata</i>						○			○	
イワデンダ科	6	イヌワラビ	<i>Athyrium niponicum</i>						○				○
オモダカ科	7	ヘラオモダカ	<i>Alisma canaliculatum</i>						○			○	
ユリ科	8	シンテッポウユリ	<i>Lilium formolago hort.</i>			その他			○			○	○
	9	ヤブラン	<i>Liriope platyphylla</i>						○			○	○
	10	サルトリイバラ	<i>Smilax china</i>						○			○	○
ヤマノイモ科	11	ヤマノイモ	<i>Dioscorea japonica</i>						○			○	○
	12	オニドコロ	<i>Dioscorea tokoro</i>						○			○	○
アヤメ科	13	キシヨウブ	<i>Iris pseudacorus</i>			重点対策			○	○		○	○
イグサ科	14	イ	<i>Juncus decipiens</i>						○			○	○
ツユクサ科	15	ツユクサ	<i>Commelina communis</i>						○			○	○
	16	ムラサキツユクサ	<i>T. ohiensis</i>			(逸出)			×			○	
イネ科	17	コグマザサ	<i>Sasa glabra</i>						データなし	○		○	○
	18	トボシガラ	<i>Festuca parvigluma</i>						×				○
	19	チガヤ	<i>Imperata cylindrica (L.) P. Beauv.</i>						データなし			○	○
	20	オギ	<i>Miscanthus sacchariflorus</i>						○			○	○
	21	ススキ	<i>Miscanthus sinensis</i>						○			○	○
	22	ケチデミザサ	<i>Oplismenus undulatifolius var. undulatifolius</i>						○			○	○
	23	クサヨシ	<i>Phalaris arundinacea</i>						×			○	
	24	ミゾイチゴツナギ	<i>Poa acroleuca</i>						×				○
	25	スズメノカタビラ	<i>Poa annua</i>						○				○
	26	オオスズメノカタビラ	<i>Poa trivialis L.</i>			(帰化)			×			○	○
タケ科	27	アズマネザサ	<i>Pleiblastus chino</i>						○			○	○
ガマ科	28	コガマ	<i>Typha orientalis</i>				水辺		×			○	○
カヤツリグサ科	29	オニスゲ	<i>Carex dickinsii</i>					水辺	■実種のため掲載なし			○	○
	30	シラスゲ	<i>Carex doniana</i>						○				○
	31	マスクサ	<i>Carex gibba</i>						×				○
	32	ヒゴクサ	<i>Carex japonica</i>						○			○	○
ラン科	33	シダヌマラン	<i>Cephalanthera shizuoi</i>	VU	II類		樹林	■実種のため掲載なし					○
クルミ科	34	オニグルミ	<i>Juglans mandshurica var. sachalinensis</i>						○				○
ヤナギ科	35	コゴメヤナギ	<i>Salix serissaefolia</i>						×			○	○
カバノキ科	36	ハンノキ	<i>Alnus japonica</i>						○	○	実生もあり	○	○
	37	イヌシデ	<i>Carpinus tschonoskii</i>						○	○		○	○
ブナ科	38	アラカシ	<i>Quercus glauca</i>						○	○		○	○
	39	シラカシ	<i>Quercus myrsinaefolia</i>						○	○		○	○
	40	コナラ	<i>Quercus serrata Murray</i>						○	○		○	○
ニレ科	41	エノキ	<i>Celtis sinensis</i>						○		実生	○	○
	42	ケヤキ	<i>Zelkova serrata</i>						○		実生もあり	○	○
クワ科	43	ヤマグワ	<i>Morus australis</i>						○			○	○
アサ科	44	カナムグラ	<i>Humulus japonicus</i>						○				○
イラクサ科	45	アオミズ	<i>Pilea mongorica</i>						○				○
タデ科	46	ミズヒキ	<i>Persicaria filiformis</i>						○			○	○
	47	ツルソバ	<i>Polygonum chinense var. thunbergianum</i>						×			○	
	48	ママコノシリヌグイ	<i>Persicaria senticosa</i>						×			○	
	49	ミゾソバ	<i>Persicaria thunbergii</i>						○			○	○
	50	スイバ	<i>Rumex acetosa</i>						○			○	○
	51	ギシギシ	<i>Rumex japonicus</i>						○			○	○
ナデシコ科	52	ウシハコベ	<i>Stellaria aquatica</i>						○			○	○
	53	コハコベ	<i>Stellaria media</i>			(帰化)			○			○	○
ヒユ科	54	イノコヅチ	<i>Achyranthes bidentata var. japonica</i>						○			○	○
モクレン科	55	コブシ	<i>Magnolia kobus</i>						○			○	○
キンポウゲ科	56	ケキツネノボタン	<i>Ranunculus silenifolius</i>						○			○	○
アケビ科	57	ゴヨウアケビ	<i>Akebia x pentaphylla</i>						×		実生	○	
	58	アケビ	<i>Akebia quinata</i>						○		実生	○	○
	59	ミツバアケビ	<i>Akebia trifoliata</i>						○		実生	○	○
ドクダミ科	60	ドクダミ	<i>Houttuynia cordata</i>						○			○	○
ケシ科	61	ハンゲシヨウ	<i>Saururus chinensis</i>				水辺	■実種のため掲載なし	○			○	○
	62	ムラサキケマン	<i>Corydalis incisa</i>						○			○	○

科名	番号	種名	学名	環境省RL	神奈川県RDB	外来種など	藤沢市環境実態調査		健康の森の有無	ピオトーブ内での確認の有無	備考	確認した年		
							選定種					2015年	2016年	
							指標種	重要種						
アブラナ科	63	オランダガラシ	<i>Nasturtium officinale</i>			重点対策			○			○	○	
ベンケイソウ科	64	ユモチマンネングサ	<i>Sedum bulbiferum</i>						×				○	
バラ科	65	キンミズヒキ	<i>Agrimonia pilosa var. japonica</i>						○			○	○	
	66	ヘビイチゴ	<i>Potentilla hebiichigo</i>						○			○	○	
	67	ヤブヘビイチゴ	<i>Duchesnea indica</i>						○			○	○	
	68	ダイコンソウ	<i>Geum japonicum</i>						○			○	○	
	69	オヘビイチゴ	<i>Potentilla sundaica var. robusta</i>						×			○		
	70	ウツミズザクラ	<i>Padus grayana</i>						○	○		○	○	
	71	ノイバラ	<i>Rosa multiflora</i>						○	○		○	○	
	72	クサイチゴ	<i>Rubus hirsutus</i>						○				○	
マメ科	73	ヤブマメ	<i>Amphicarpaea breccata subsp. edgeworthii var. japonica</i>						○			○		
	74	ヤブハギ	<i>Desmodium mandshuricum</i>						○			○		
	75	フジカンゾウ	<i>Desmodium oldhamii</i>				樹林		○			○		
	76	ヌズビトハギ	<i>Desmodium oxyphyllum</i>						○			○	○	
	77	ヤハズソウ	<i>Kummerowia striata</i>						×			○	○	
	78	メドハギ	<i>Lespedeza cuneata</i>						○			○	○	
	79	クズ	<i>Pueraria lobata</i>						○			○	○	
	80	ヤハズエンドウ	<i>Vicia angustifolia var. segetalis</i>						○				○	
カタバミ科	81	イモカタバミ	<i>Oxalis articulata</i>			帰化			×				○	
トウダイグサ科	82	ヒツバハギ	<i>Flueggea suffruticosa</i>				林縁		○				○	
	83	アカメガシワ	<i>Mallotus japonicus</i>						○			○	○	
ウルシ科	84	ヌルデ	<i>Rhus javanica var. chinensis</i>						○			○	○	
モチノキ科	85	イヌウメモドキ(ウメモドキ)	<i>Ilex serrata</i>						○	○		○	○	
ニシキギ科	86	ツルウメモドキ	<i>Celastrus orbiculatus var. orbiculatus</i>						×			○	○	
ブドウ科	87	ノブドウ	<i>Ampelopsis glandulosa var. heterophylla</i>						○			○		
	88	ヤブガラシ	<i>Cayratia japonica</i>						○			○	○	
ウリ科	89	アマチャヅル	<i>Gynostemma pentaphyllum</i>						○			○	○	
ミソハギ科	90	エゾミソハギ	<i>Lythrum salicaria</i>						×	ミソハギは雑草	園芸種	○	○	
ミズキ科	91	クマノミズキ	<i>Swida macrophylla</i>						○	○		○	○	
ウコギ科	92	タラノキ	<i>Aralia elata</i>						○			○	○	
	93	キツタ	<i>Hedera rhombea</i>						○			○	○	
セリ科	94	セリ	<i>Oenanthe javanica</i>						○			○	○	
	95	ヤブジラミ	<i>Torilis japonica</i>						×			○		
	96	オヤブジラミ	<i>Torilis scabra</i>						○			○	○	
エゴノキ科	97	エゴノキ	<i>Styrax japonica</i>						○		実生	○	○	
モクセイ科	98	イボタノキ	<i>Ligustrum obtusifolium</i>						○			○	○	
ガガイモ科	99	ガガイモ	<i>Metaplexis japonica</i>						×				○	
アカネ科	##	ヤエムグラ	<i>Galium spurium var. echinospermon</i>						○				○	
	##	ヘクソカズラ	<i>Paederia foetida</i>						○			○	○	
ヒルガオ科	##	コヒルガオ	<i>Calystegia hederacea</i>						○			○	○	
クマツヅラ科	##	クサギ	<i>Clerodendrum trichotomum</i>						○			○	○	
シソ科	##	カキドオシ	<i>Glechoma hederacea ssp. grandis</i>						○				○	
	##	ヒメオドリコソウ	<i>Lamium purpureum</i>			帰化			○				○	
	##	アキノタムラソウ	<i>Salvia japonica</i>						○			○		
ゴマノハグサ科	##	タチヌノフグリ	<i>Veronica arvensis</i>			帰化			×				○	
	##	オオイヌノフグリ	<i>Veronica persica</i>			帰化			○			○	○	
オオバコ科	##	オオバコ	<i>Plantago asiatica</i>						○			○		
スイカズラ科	##	スイカズラ	<i>Lonicera japonica</i>						○			○	○	
	##	ソクズ	<i>Sambucus chinensis</i>			林縁			○			○	○	
	##	ガマズミ	<i>Viburnum dilatatum</i>						○		実生もあり	○	○	
キク科	##	オオバタクサ	<i>Ambrosia trifida</i>			重点対策			○			○	○	
	##	ヨモギ	<i>Artemisia indica var. maximowiczii</i>						○			○	○	
	##	アメリカセンダングサ	<i>Bidens frondosa</i>			その他			○			○	○	
	##	コセンダングサ	<i>Bidens pilosa var. pilosa</i>			(旧要注意外来)			○			○	○	
	##	ハルジオン	<i>Erigeron philadelphicus</i>			(旧要注意外来)			○			○	○	
	##	アキノノゲシ	<i>Lactuca indica</i>						○			○	○	
	##	セイタカアワダチソウ	<i>Solidago canadensis var. scabra</i>			重点対策			○			○	○	
	##	ノゲシ	<i>Sonchus oleraceus</i>			帰化			○			○	○	
	##	ヒメジョオン	<i>Erigeron annuus</i>			その他			○			○	○	
	##	セイヨウタンポポ	<i>Taraxacum officinale</i>			帰化			○				○	
	##	カントウタンポポ	<i>Taraxacum platycarpum</i>						×				○	
##	オニタビラコ	<i>Youngia japonica</i>						○				○		
58科				1種	1種	18種	4種	3種	97種	12種	94種	105種		
オレンジ色は木本類 ハンノキは藤沢市に2か所しか存在しない														

毎木調査結果

表 2 : 毎木調査結果

番号	樹木No	樹高	胸高直径	樹種	
1	1-1	1094	22.0	ハンノキ	
2	1-2	1260	27.4	ハンノキ	
3	1-3	926	16.2	ハンノキ	
4	1-4	1254	27.1	ハンノキ	
5	1-5	1120	16.9	ハンノキ	
6	1-6	1226	23.2	ハンノキ	
7	1-7	1306	19.7	ハンノキ	
8	1-8	1306	28.0	ハンノキ	
9	1-9	1044	18.0	ハンノキ	
10	1-10	1364	26.4	ハンノキ	
11	1-11	1430	24.2	ハンノキ	
12	1-22	791	8.3	ヤマボウシ	伐採
13	1-23	806	15.0	クマノミズキ	伐採
14	1-24	596	6.4/5.4	クマノミズキ	伐採
15	1-25	668	11.1	ハンノキ	伐採
16	1-26	630	5.4	ハンノキ	
17	1-27	595	6.5	ハンノキ	伐採
18	1-28	459	5.7	ハンノキ	伐採
19	1-29	750	8.0	ハンノキ	
20	1-30	1026	9.4	ハンノキ	伐採
21	1-31	1026	9.2	ハンノキ	
22	1-32	1026	11.1	ハンノキ	
23	1-33	1026	11.8/8.6	ハンノキ	
24	1-34	1026	10.2/6.7/11.2	ハンノキ	
25	1-35	1026	13.1	ハンノキ	
26	1-36	1026	6.4/10.8/3.8	ハンノキ	伐採
27	1-37	1200	25.8	ハンノキ	伐採
28	1-38	1134	14.0	ハンノキ	
29	1-39	1100	14.0	ハンノキ	伐採
30	1-40	695	4.3	ハンノキ	伐採
31	1-41	897	6.2	ハンノキ	伐採
32	1-42	938	7.6	ハンノキ	伐採
33	1-43	1093	10.5	ハンノキ	伐採
34	1-44	465	5.7	ハンノキ	伐採
35	1-45	1232	11.1	ハンノキ	伐採
36	1-46	1131	8.3	ハンノキ	伐採
37	1-47	1025	7.2/8.6	ハンノキ	伐採
38	1-48	605	6.4	ハンノキ	伐採
39	1-49	474	4.1	ハンノキ	伐採
40	1-50	1030	9.9/12.3	ハンノキ	伐採
41	1-51	1030	8.6	ハンノキ	
42	1-52	1186	12.4	ハンノキ	
43	1-53	1170	11.5	ハンノキ	伐採
44	1-55	1036	10.2	ハンノキ	伐採
45	1-56	1100	9.9	ハンノキ	
46	1-57	1100	5.4/5.7/5.6/8.8	ハンノキ	伐採
47	1-58	1100	11.0	ハンノキ	伐採
48	1-59	1100	8.6/6.4	ハンノキ	
49	1-60	1100	9.6/9.7	ハンノキ	伐採
50	1-61	1050	5.9/11.6	ハンノキ	
51	2-0	1070	18.2	ハンノキ	
52	2-1	863	10.0	ハンノキ	
53	2-2	862	10.0/9.2	ハンノキ	
54	2-3	910	12.1	ハンノキ	伐採
55	2-4	1000	12.1	ハンノキ	
56	2-5	862	15.0	ハンノキ	
57	2-6	862	6.4	ハンノキ	
58	2-7	940	13.4	ハンノキ	
59	2-8	950	23.2	コゴメヤナギ	
60	2-9	1100	22.0	ハンノキ	

番号	樹木No	樹高	胸高直径	樹種	
61	2-10	416	4.8/4.1/3.7/5.7/5.1/3.3/5.1/4.0	ヤマボウシ	伐採
62	2-11	861	12.1/11.2	ハンノキ	
63	2-12	861	9.6	ハンノキ	伐採
64	2-13	861	12.1	ハンノキ	
65	2-14	1350	20.4	ハンノキ	
66	2-15	1400	8.8	ハンノキ	
67	2-16	735	12.6	フワミズザクラ	
68	2-18	950	15.0	クマノミズキ	
69	2-19	800	12.1	アラカシ	
70	2-20	1346	23.9	コナラ	
71	2-21	1178	21.7	イヌシデ	
72	2-22	1236	18.8	イヌシデ	
73	2-23	1146	22.0	クマノミズキ	
74	2-24	1370	19.6	コゴメヤナギ	伐採
75	2-25	1210	14.0	ハンノキ	
76	2-26	2340	44.6	コゴメヤナギ	
77	2-28	1166	15.3	コゴメヤナギ	伐採
78	2-29	840	6.9/5.3/4.6	アカメガシワ	伐採
79	2-38	1170	25.8	ハンノキ	
80	2-39	410	3.3	ハンノキ	伐採
81	2-40	620	6.4	ハンノキ	
82	2-41	920	14.0	ハンノキ	
83	2-42	690	5.7/5.4	ハンノキ	伐採
84	2-43	1100	17.5	ハンノキ	
85	2-44	1000	19.1	ハンノキ	
86	2-45	600	4.5	ハンノキ	
87	2-46	610	3.7/13.4	ハンノキ	
88	2-47	1400	21.3	ハンノキ	伐採
89	2-48	1510	25.8	ハンノキ	
90	2-49	410	8.4	ハンノキ	
91	2-50	1520	19.9	ハンノキ	
92	2-51	1560	26.4	ハンノキ	
93	2-52	1730	17.2	クマノミズキ	
94	2-53	1320	19.4	ハンノキ	
95	2-54	1210	9.2	ケヤキ	
96	2-55	1420	19.4	ハンノキ	
97	2-56	1960	23.1	ハンノキ	
98	2-57	1960	19.3	コナラ	
99	2-58	1860	23.4	ハンノキ	
100	2-59	1380	10.5	オニグルミ	
101	2-60	270	3.2	クヌギ	
102	2-61	1240	8.8	クマノミズキ	
103	2-62	2300	23.4	ハンノキ	
104	2-63	770	10.4/5.6/6.4/3.5/2.2	ハンノキ	
105	2-64	490	2.9	ハンノキ	
106	2-65	1140	10.5	ハンノキ	
107	2-66	1070	11.3	ハンノキ	伐採
108	2-67	680	4.6	ハンノキ	伐採
109	2-68	970	11.8	ハンノキ	
110	2-69	1090	9.2	ハンノキ	伐採
111	2-70	950	6.5	ハンノキ	
112	2-71	640	4.5,1.9	ハンノキ	伐採
113	2-72	1200	10.2	ハンノキ	
114	2-73	2080	16.2	ハンノキ	
115	2-74	2110	18.2	ハンノキ	伐採
116	2-75	2460	23.2	ハンノキ	
117	2-76	610	5.3	ハンノキ	
118	2-77	960	9.6	ハンノキ	
119	2-79	1270	12.4	コナラ	
120	2-80	1570	22.5	コナラ	
121	2-81	1460	30.3	ハンノキ	
	121本				

指標種・重要種について

○植物

・指標種

表 3：植物 指標種

番号	種名	環境	指標する環境
1	フジカンゾウ	樹林地	良好な林床を指標
2	ソクズ	林縁	良好な林縁を指標
3	ヒトツバハギ		
4	コガマ	水辺	良好な湿地や水田を指標

・重要種

表 4：植物 重要種

番号	種名	環境	選定理由
1	クゲヌマラン	樹林	生育地が限定的 ※)。藤沢市内で発見され、その市内の地名を冠する。県 RDB II 類
2	オニスゲ	水辺	近年個体数が減少している。

4. まとめ

以上の調査結果を踏まえ、SFC の代表的な植物図鑑を英語で作成している。植物図鑑は、今後も更新を続け、できるだけ多くの種を網羅できるようにする予定である。日本の植物種が掲載された英語の図鑑はほとんど存在しないため、GIGA の学生が生態学フィールド調査法を履修するために重要な情報になると考えている。加えて、植物相以外の分類群についても、作成していく予定である。